

## 平成30年度 生徒による授業評価の分析と改善方針(1学年)

	集計結果による分析	改善方針
国語	充実感はほぼ前回と同じ結果であったが、それ以外は全ての項目で前回は上回る評価結果である。また、生徒自身の取り組みも引き続き良好で、教材や指導方法の工夫に促されるかたちで生徒の主体性や学習姿勢もより良い状況になっていることが分かる。	分析で述べたように、ほぼ全ての項目で「かなり当てはまる」の数が大幅にアップしているの、方向性としては間違っていないであろう。しかし、共通テストや、観点別評価といったしほりがある以上、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の数を減らしていくのは、至難の業である。
社会	おおむね4もしくは3の評価であったが生徒の充実感については3の評価が多かったことに課題がある。	一般的に2の評価をつける生徒が減っていることから1学期に比べて授業改善が進んだと考えられる。今後に向けては生徒の充実感を高める授業を行うように努力したい。
数学	どの項目ともわずかではあるが、「とてもあてはまる」と「だいたい当てはまる」の比率が上昇した。特に、「準備・教材の工夫」、「授業の充実感」、「生徒主体の授業の工夫」等の項目において顕著であった。	数学Ⅰは2学期から習熟度別の授業展開を行っている。それにより生徒にとってはきめ細かい指導ができたが、定期試験は統一問題のため作問に苦労した。分野によっては得意な生徒と不得意な生徒を混在することでグループで教えあう方法も有効かもしれない。できるだけ主体的に学ぶ雰囲気を作っていきたい。
理科	「生徒主体の授業の工夫」において、「当てはまる」と答えた人数が前回より増加した。発問や小テストによる理解度のチェックなどを計画的に行うことにより、授業への参加意識が育ってきたためと思われる。	問題演習や小テストによる振り返りを重視し、基礎事項の理解度が低下しないよう努めてきた。理解力だけでなく、興味関心を持たせていくために、課題研究や実験・実習でのグループワーク等を通して、生徒の言語活動をより一層増やしていくことが今後の課題である。
体育	集団行動、ラジオ体操第一などから球技に移行したことにより全体的な満足度は増加した。	球技を二種目行ったが、種目の後半の授業になっていくと徐々に準備、片付けなどスムーズに行え、審判なども自主的に行うなど、より主体性の増した授業が展開できた。上級生と比べるとまだまだではあるが、それは今後の課題として取り組みたい。また授業に慣れてしまい、メリハリのある授業が難しくなっていたので、今後の授業課題として取り組みたい。
保健	多くの項目で7月よりも良い方に改善された。特に「学習への取り組み」においては高い数値がでた。	「学習への取り組み」は改善されたがまだ低い状態にある。来年度も保健の授業は続くので、興味関心のあるような授業展開を行えるよう改善したい。
美術	全項目で「とても当てはまる」「だいたい当てはまる」の合計がほぼ90%である。全項目で、評価の割合が同じような結果であった。	全項目で「とても当てはまる」の割合が増えて、「あまり当てはまらない」の割合が減った。改善が見られたと感じたが、もう少し課題の説明など解りやすくしていきたい。
音楽	概ね良好な評価が得られているが、「生徒主体の授業の工夫」と「学習への取組」の項目は他と比べると低い。2学期は合唱の授業を主軸としたので、自発的に行う授業内容が少なかったためと考えられる。	パート練習など生徒自らが練習計画をたて進めていく工夫をしたため、生徒主体の授業の工夫が改善された。3学期のアンサンブルでは毎授業達成目標を作り、積極的に取り組める授業作りをしていく。
英語	「コミュニケーション英語Ⅰ」ではすべての項目において1学期より高い評価を得ている。特に教材の工夫、学習への取組については9割以上の生徒が「とても当てはまる」と「当てはまる」と答えている。「英語表現Ⅰ」では一般的に1学期と変わらない。教材の工夫、学習への取組については9割の生徒が「とても当てはまる」と「当てはまる」と答えているが、授業の充実感について「あまり当てはまらない」と「当てはまらない」と答える生徒が2割弱いる。	教材や指導方法の工夫により、生徒が計画を立てて勉強する習慣を確立させることに努めてきた。「英語表現Ⅰ」では3学期から習熟度別授業を展開しており、生徒の理解度により合わせた指導を行うことができています。今後も生徒の取り組みを確認しながら授業を進めていくことに努めていきたい。
家庭	前回、「生徒主体の授業の工夫」は「とても／だいたいあてはまる」回答89%であったが、今回は全項目において92%を超えている。自由記述欄においても、「プリントだけではなく、説明が良い」「わかりやすい」「説明の仕方、頭に残りやすい」などの回答が得られた。	1学期は被服実習であったが、2学期は調理実習を行った。生徒が主体的に取り組むやすい授業であり、生徒にとって充実感・達成感は得やすかったと思われる。3学期は、個別及びグループで思考する場面や発表の機会、生徒同士意見を交わす場面設定を座学において取り入れる工夫をし、生徒の関心・意欲を高めていきたい。
情報	「学習への取り組み」において「当てはまる」と答えた評価が77%から72%に若干減少したのは1学期に扱った文書作成によるレポート作成に比べ、表計算ソフトの扱い等に難しさを感じたためと思われる。	1・2学期の最後の成果として、情報収集してレポートを仕上げプレゼンテーションとして一人一人が発表することにより最後の成果とした。

## 平成30年度 生徒による授業評価の分析と改善方針(2学年)

	集計結果による分析	改善方針
国語	全体的には大きな変化はみられなかったが、C古典基礎は「学習の取り組み」「態度・姿勢」の「当てはまる」と答えた数字が上がっている。2年になって初めての教科であり、とまどっていた状況から、学習、授業への取り組み方を理解したと見るべきであろう。	生徒主体の授業の工夫という点では「当てはまらない」とする数字が若干減っているが、まだ工夫の余地があると思われる。授業に対して最初から取り組む姿勢をみせない生徒も「生徒主体」の課題を組むことで改善されると思われるが、共通テストのしほりもあり、教師主体の授業を抜け出せない現状がある。生徒主体の活動を今後も考えていく必要がある。
社会	おおむね3・4評価であるが、授業の充実感にあてはまらないとする数が微増した。史料の読み取りやペアワークによる達成感が得られなかったものと考えられる。全体的に「1」や「2」の数が減り、授業に対する満足度は増えたようである。しかし、生徒本人の世界史に対する勉強のモチベーションが下がっているため、授業で何か達成感を得られるような授業をしていき、生徒のモチベーション向上を図りたい。	調べ学習やグループワーク、ペアワークの機会を多くし、活気のある授業展開をめざす。机間巡視を取り入れ、生徒の理解度を確認するようにしたため、「生徒への接し方」に対する否定的な意見は減少した。一方で、「生徒主体の授業の工夫」が1学期に比べて出来ていなかったため、グループワーク等取り入れることが今後の課題である。
数学	全ての項目で、「とても当てはまる」、「だいたい当てはまる」の割合が向上し、全項目7割以上の高評価であった。数学Ⅱの学習内容が生徒に理解されつつあるようだ。理系の科目であるため、意欲的に取り組む生徒と、そうでない生徒で温度差が出ている。また、講義型の授業になっていくため生徒への接し方にも温度差が生まれてきているのかもしれない。	生徒による授業評価の観点からみると、7月に比べて全体的に改善されているといえる。課題は、授業中の説明を工夫すること、生徒主体の授業の取り組みをしっかりとさせることだろう。理系の科目のため、進路により温度差が生まれている。また今年度から理系、文系、スポーツ系に分かれたため理系とスポーツ系の温度差が課題になっていくであろう。
理科	(生物基礎) 授業の充実感、生徒主体の授業の工夫、自身の学習への取り組みの評価が上昇したが、授業の進め方、説明のわかりやすさが下降した。恒常性など複雑な内容だったことが影響したかもしれない。(物理基礎) 授業の進め方、説明のわかりやすさ、学習への取り組みの評価が下降した。これは運動方程式など高度な内容になったことが影響している。授業の充実感がかわらないのは真面目に授業に取り組んでいるためと考えられる。	(生物基礎) 説明を補助するプリントや、練習問題を取り入れ、計算問題の解き方などの説明を工夫した。恒常性の分野が難しいので、もう少し簡単に説明できるようにしたい。(物理基礎) 練習問題のプリントで計算問題にそれぞれが取り組めるよう工夫した。また実験を行い、力学現象の理解を深めた。
体育	11月から持久走に入った為、いくつかの項目で数値が下がったが、全体的な満足度には大きな変化は見られなかった。	1年生と比べると主体性の部分でやはり数値が高く出た。3年生になると全ての時間で種目選択になるので、2年間で培った技術や知識を発揮し、より主体的に授業を展開したい。また、主体的な持久走の授業を行えるよう工夫していきたい。
保健	1学期と比べて大きな変化はみられなかったが、「生徒主体の授業の工夫」という点の数値は若干増加した。	「生徒主体の授業の工夫」という点の数値は若干の増加が見られたが今後も工夫が必要である。グループでの話し合いを多くし、自分の考えを発言させるような主体的な授業展開を行う必要がある。
美術	ほぼ全項目で「とても当てはまる」「だいたい当てはまる」の合計が95%～100%であった。しかし、課題や授業に対して充実感を感じてない生徒もいた事は授業の進め方や課題を検討する必要があると感じた。	全項目で高評価の割合が100%であった。満足度の高い評価であると考えられる。全体的には良い取り組みであったと感じた。授業の進め方や課題に集中して制作ができたように思われる。
音楽	全ての項目で「とても当てはまる」の割合が増えたが、「授業の充実感」のみ「あまり当てはまらない」の割合が8%であった。	「授業の充実感」を更に改善するために、細かく達成目標を作り、楽しく充実した授業を目指す。生徒が自主的に取り組み、意欲的に音楽活動ができるような環境を作っていく。
英語	「コミュニケーション英語Ⅱ」「発展英語A」ともに、依然として教材の工夫や指導について、「とても当てはまる」と「当てはまる」と答えた生徒の数が半数以上いるが、学習へ取組みの評価は1学期と変わらず、「あまり当てはまらない」と「当てはまらない」と答える生徒も一定数いる。	2学期は学習内容が難しくなったことで、生徒の学習に向かう姿勢が下がったり、授業の充実感が下がったりすることが懸念された。2学期は生徒との人間関係が成り立ち、教材や授業をすることにより、より生徒の実情に合った指導を行えた。今後の課題は、生徒が自分で学習に取り組む姿勢を育てることであると考えられる。
家庭	フードデザインにおいて、全項目において「とても／だいたいあてはまる」回答を得ている。12名受講のクラスで少人数展開ではあるが、「あまりあてはまらない」「ほとんどあてはまらない」が0回答となった。	「とても当てはまる」「だいたい当てはまる」に全員が回答しており、授業が充実していると思われる。座学にて基礎的な学びを深めた1学期に比べ、2学期は調理実習や調べ学習、グループワークの機会を多く取り入れた結果、生徒にとって満足度の高い主体的な授業ができ、生徒の食への関心が深まった。引き続き、知識や技術を身につけ、思考し工夫することなど、実習を通じて学習に対する満足度をあげていきたい。
情報	前回と比べて、「当てはまる」と答えた割合が前回よりも若干下がった項目がある。学習内容がより高度なものになってきたことが原因と考えられる。	少人数のメリットを生かし、生徒一人ひとりに目を配りながら指導を行っている。必修選択科目ということで、目的意識を持って受講している生徒が多い。そのような生徒のニーズに応えるべく、生徒主体の活動を中心に据えた学習課題を精選・開発していきたい。

# 平成30年度 生徒による授業評価の分析と改善方針(3学年)

	集計結果による分析	改善方針
国語	古典精読、古典研究については、授業内容、指導方法ともに前回は上回る評価結果である。精選現代文、理系現代文、国語探究では一部満足度が落ちている項目もあるが、もともと高い授業に対する充実感があつたので、その充実感を維持したと考えられる。	3年生の2学期、多くの生徒が進路決定した以降も、概ね高い満足度を得ることができた。特別に、今流行のアクティブラーニングの手法を取り入れたわけではないが、授業担当者が、「共通テスト」というものに縛られず、それぞれの持ち味を生かした授業を行ったからではないかと推察する。
社会	多くの生徒がどの項目も「とても当てはまる/だいたい当てはまる」と回答しているが、その中で「とても当てはまる」と回答した生徒は多くなく、1学期と比べても減少している。おおむね4もしくは3の評価であつたが、3の評価が多くもう少し4の評価が増えるように授業改善を進めたい。	1学期のようなワークシート作成・発表に加えて、2学期はディベートを行ったが、準備の過程をうまく作れず、生徒の参加度にはばらつきがあり、すべての生徒にとって有意義な取り組みとすることができなかった。それが評価にも反映されたと考えられる。1学期と評価があまり変わっていないことからもう少し生徒に達成感を持たせるような授業改善を行いたい。
数学	全体的に評価が7月に比較して下降した。進路の決まる生徒が増え始め、授業に対する意欲が下がってしまった部分が強く見られた。特に分野としても、2次関数や三角比などの苦手意識の強い単元が続いたことも理由として考えられる。どの項目も6割から7割と高評価であるが、1学期に比べて前向きな取り組みが見えなくなってしまう傾向にある。進路決定による、意識の低下に加え、教室での机上の作業から、テキスト内容に依拠した課題をPCでシミュレーションするスタイルに戸惑いを感じているようである。	1学期の評価時は概ね、8割から9割の生徒が「だいたい当てはまる」を選んでいて、今回もほとんど変化はないものの、生徒が主体的に取り組む工夫は必要だったように感じる。テキスト通りに計算するのも数学の勉強だが、そこからより現代的な課題にするには、PCによるシミュレーション等は最適ではなく、このスタイルが受け入れられるまで、時間をかけなければならない。
理科	(物理)「生徒主体の授業の工夫」「授業の充実感」「学習への取組」の項目が若干低い値となっている。これは、内容が高度になってきているため、理解が進んでいないと考える生徒がいるとともに、演習が多くなっているため「意見等を発表する機会」はあまり多くないからだと考えられる。(生物) 授業の充実感が大幅に上昇した。難易度の高い部分をなるべくコンパクトかつ優しく理解できるように工夫した成果かと思う。	(物理)(発展物理)高度で難しい内容が多いため、引き続き理解できる授業を心がけていきたい。また、講義や演習が中心の授業の中にも、生徒が積極的に参加できる工夫をしていきたい。(生物)2学期以降は、プリントを多用し、説明の時間短縮とともに授業進捗のスピードアップを図り、12月までに教科書を終えることができた。生徒も最後までよく取り組んでいた。
体育	大きな変化はないが、全体的な満足度は高く、体育を楽しんでいる。	生涯スポーツの観点から多くの種目にふれ、満足ができたと思う。全ての数値は高かったが、これで満足せずさらなる取り組みをする。種目が限られることから多少の飽きがでて、マンネリ化傾向にあるので授業の中身の工夫をしていきたい。生徒が自ら考え実行するような授業展開を今後行いたい。
美術	ほぼ全項目で高評価の割合が100%であつた。満足度の高い評価であるとする。全体的には良い取り組みであつたと感じた。授業の進め方や課題に集中して制作ができたように思われる。	前期と比較すると、全項目で「だいたい当てはまる」の割合が増えて、「あまり当てはまらない」の割合が減った結果となった。少しではあるが、改善が見られたと感じたが、課題の進め方などアドバイスをしながら、興味を持たせられるように指導をしたい。
音楽	すべての項目で概ね満足していることが伺える。アンケート結果の「上達してきた」等の言葉から、演奏技術が向上してきたことに充実感を得ていることが分かる。	現在の演奏技術に満足し、個人練習を嫌がる生徒がでてきたので、全ての生徒に目を配り細かい練習目標を立てていく。それぞれが楽曲を理解し、創意工夫を表現できるような演奏を目指していく。
英語	「コミュニケーション英語Ⅲ」はすべての項目において「あまり当てはまらない」の回答が減少し、「とても当てはまる」と「当てはまる」の回答が微増している。「発展英語B」については授業の充実感・生徒主体の授業の工夫の項目で「とても当てはまる」と「当てはまる」の回答がかなり増えている。	全ての項目において「とても当てはまる」「当てはまる」の回答が90%をこえており、7月の時点では3つの項目において「あまり当てはまらない」「ほとんど当てはまらない」と答えた生徒の割合が10%をこえていたことを考えると、生徒が前向きに学ぶ重要性を理解してきたと考えることができる。今後も生徒からの要望を聞き、教材研究などに取り組みながら、更なる改善を図っていく。
家庭	3名のみ受講であるが、1学期に続き2学期においても100%の「とてもあてはまる」回答を得ている。保育園実習を中心とした授業展開に合わせ、2学期は生徒企画の部分・準備等も含んでいたため、生徒にとって主体的かつ実践的な学びがあつたことから、このような結果に繋がつたとと思われる。	少人数で細かい指導ができたので評価も高く、保育園実習に向けての準備が十分に行えたので、充実した実習となり、保育への進路にも繋がった。就職予定の生徒も、直接進路に関係していないが、意欲的に取り組み技術や知識が深くなつたと思われる。